

旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学医学部附属病院
広報誌編集委員会委員長
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/> (附属病院)



旭川医科大学病院の法人化の課題

病院長 石川 睦 男

新たな卒後臨床研修制度の発足、インシデント報告の義務化などの医療安全管理体制の整備などの医療におけるビッグバンと同時に、国立大学法人化が平成16年4月1日からスタートしました。このことは、旭川医科大学医学部附属病院（以下旭川医大病院）が法人化したことを意味し、旭川医大病院の経営状況が、数少ない国立単科医科大学の命運にも大きく影響を与えることは明らかであります。

このような国立大学の法人化という歴史的に大きな変革を迎えた中で、国立大学の附属病院が担う責任の重さと、病院長として、その職務遂行の難しさを痛感致します。

この状況下に於いて、本院の組織系統について考えてみました。まず、病院長は、病院運営の最終責任者であり、診療の長であり、医療法では、管理者である病院長は、医師でなくてはなりません。病院長について、アメリカの病院の管理者は、医師ではなく、MBAをとったCEOが多く、ヨーロッパでは、病院のトップは、医師であり、各国の、病院の成り立ち、歴史のもとに各々運用されていると考えられます。

個々の大学附属病院で、それぞれに違いはあろうかと思いますが、私は、病院長は、単なる管理者ではなく、第一に、臨床医の立場から患者にとって安全で質の高い医療を提供する責任があると考えております。また、医師や、コメディカルの人達が、働きやすく、コミュニケーションの取りやすいシステムと環境を整えることも重要なことと考えます。更に、医学生や、研修医が満足し、将来に希望の持てるような研修体制も確立したいと思っています。当然の事として、第二には、政策的な中長期目標、計画の設定と、日常的な予算の配分、定員、設置の決定があります。第三に、大学病院は、特定機能病院ですが、本院の、高度先進医療の承認は1件のみです。私は、病院長として、臨床研究者の目をもち、トランスレーションリサーチの開発、そして、高度先進医療の推進を目指したいと考えております。

しかしながら、法人化によって最も明確に、かつ大きく変化したことは、言うまでもなく、本院が、効率的な運営と経営改善が求められることにあります。

ちなみに、医業収支率から見ますと、全国42の国立大学医学部附属病院の平成13年度の貸借対照表と損益計算書および、平成12年度の『国立大学附属病院経営管理指標』から、医業収支率（医業収入を医業費用で除した比率）からみると、すべてが100%を下回っており、国立大学附属病院で、本当の意味での黒字病院は存在しないということです。しかし、これは国立大学病院では、医療の提供が、教育、研究と一体となっているため、診療収入だけでは、賄えないとされており、そのため、医業収入の不足分を補助金収入、すなわち税金で埋め合わせをしているということです。今後は、国立大学病院の教育の義務、研究の高度化などの特殊性を訴えるだけではなく、経営の効率化と改善を求めてゆく努力が必要とされます。病院収入が一般診療経費と債務償還金より少ない場合は、経営改善係数が2%課せられることとなります。平成16年度、17年度は、直ちに病院収入が、一般診療経費と債務償還金を上回ることは難しいかもしれませんが、増収を図りたいと思います。早急に経営改善係数の課せられない状況にし、収入の剰余を病院の事業に用いたいと考えておりますので、全職員の御尽力を期待しております。そのためには、患者1人1日当たりの入院収益、外来新患率の向上、また100床当たりの年間医業費用（経費）の抑制に努めなければなりません。

さて、旭川医科大学の中長期目標、計画の中でも、病院長に強いリーダーシップを求めておりますが、病院としての意志決定は、病院長補佐会議で、病院の諸問題を検討、企画し、病院運営委員会に了承を求め、執行することになっております。私は、早急に、学長はじめ、役員と協議し、効率良かつ迅速に、病院運営の意志決定システムを本院で構築できるように努力したいと思いますが、皆様の率直な御提案、御協力、御支援をお願いしたいと思います。

国立大学法人旭川医科大学役員名簿

(平成16年4月1日現在)

職 名 (業務担当)	氏 名
学 長	八 竹 直
理 事(教育・研究及び厚生補導担当)	塩 野 寛
" (医療担当)	石 川 睦 男
" (総務・財務担当)	太 田 貢
" (非常勤) 社会貢献担当)	小野崎 保

5 人

監 事(常 勤) 業務担当監事)	河 村 猛 将
" (非常勤) 会計担当監事)	前 田 敬 道

2 人

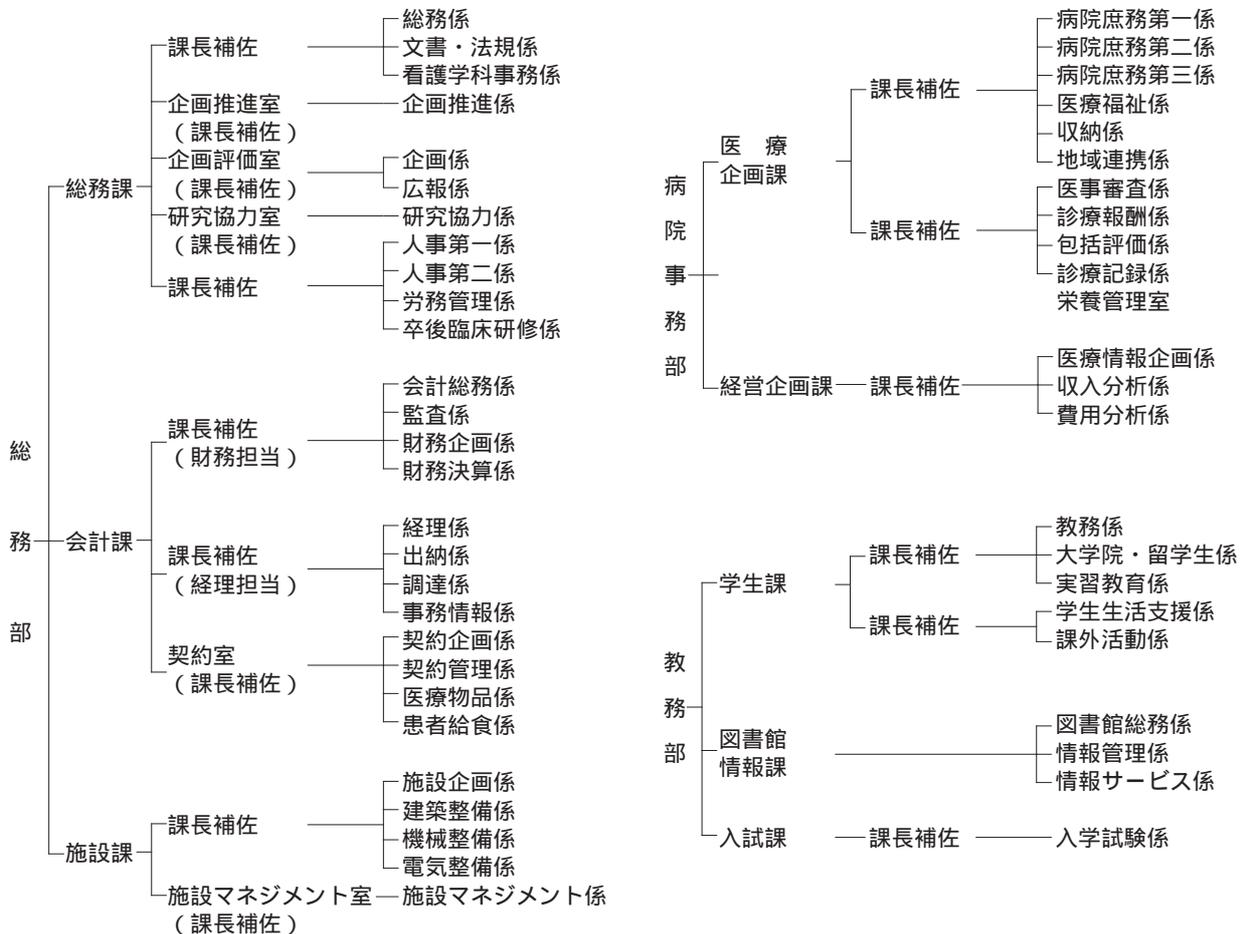
国立大学法人旭川医科大学経営協議会委員名簿

(平成16年4月1日現在)

職 名	氏 名
学 長	八 竹 直
理 事(教育・研究及び厚生補導担当)	塩 野 寛
" (医療担当)	石 川 睦 男
" (総務・財務担当)	太 田 貢
附属図書館長	小 川 勝 洋
学外委員(旭川商工会議所会頭)	高 丸 修
" (富川法律事務所弁護士)	富 川 泰 志
" (国立大学法人北海道教育大学理事)	本 間 謙 二
" (旭川市医師会会長)	増 田 一 雄
" (旭川信用金庫会長)	松 田 忠 男

10人

法人化に伴い、事務局組織が変わりました



旭川医科大学医学部附属病院における 緩和医療チーム発足にあたって

麻酔科蘇生科 岩 寛

旭川医科大学附属病院では平成16年3月10日の病院運営委員会で緩和医療チームの発足が承認され、平成16年4月より活動を開始致しております。緩和医療は、単にガン終末期患者の身体的な症状緩和ばかりでなく、精神的または心理的な症状への治療も目的とするが、さらに大きな概念、すなわち患者の社会的、宗教的、霊的な苦痛への対応、加えて患者のみならず家族への対応をも念頭に入れた福祉・介護なども含んだ包括した緩和ケアの一分野である。緩和医療は限られた人生を人間らしく生きるために治療医学と社会医学を結集し患者・家族を支援するとともに学生をはじめとする医療スタッフの教育の場となっている。緩和医療の知識と技術の普及、体制整備、さらには専門医療従事者の育成が今後の大学病院に科せられた最大の課題である。旭川医大病院では下記のスタッフの協力の下に緩和医療チームをスタートしました。今後は、広く病院職員のみならず

ボランティアの参加をすすめてより充実した緩和医療を目指したいと思っています。緩和が必要と思われましたら下記のスタッフにお気軽にご相談して頂きたくと思っています。多くの職員の協力、参加を希望しています。

旭川医科大学緩和医療チーム

窓口：麻酔科蘇生科（ペインクリニック）外来、緩和医療チームスタッフ

緩和医療チームスタッフ

麻酔科蘇生科：岩崎 寛、寺尾 基、岡田華子、松野賢一、阿部展子

精神神経科：千葉 茂、田村義之

第二外科：小原充裕 第三内科：佐藤和義

放射線科：宮野 卓 整形外科：大坪 誠

薬剤部：原千恵子

看護部：上田順子、黒崎明子

地域医療連携室：佐藤雅子

女性総合外来の開設



総合診療部 長 峯 美 穂

2004年3月より女性総合外来が始まりました。女性総合外来とは、女性特有の疾患や悩みを抱え、女性医師の診察を希望する方の初診外来です。異性に打ち明けにくいことで悩み、誰にも相談できずにいる女性が気軽に受診する、専門外来への窓口として機能します。また、女性専用の外来はここ数年で全国的に広く開設されており、北海道では、札幌、函館、岩見沢をはじめ、当院が6番目の開設になります。さらに、女性に限らず性差を考慮した医療・医学の研究が注目されており、2月には第一回性差医療・医学研究会が行われ、今後ますます発展していく分野と思われます。当院の女性総合外来では、現在、一人の診察時間を30分に設定し、完全予約制、通常診察と同様の保険診療で行っています。診察は

総合診療部を中心に、患者さんのご希望に合わせて院内の女性医師が対応しています。初診は必ず女性医師が対応し、専門的な精査・治療の段階では必ずしも女性医師とは限らないことを患者様にご理解の上診察しています。現在院内には30名以上の女性医師がおりますが、様々な分野に精通した女性医師がいることが本院の女性総合外来の強みであり、大学病院の特色を生かせる点と考えております。旭川市内はもとより、稚内、猿払など遠方からも問い合わせがあり、受診された方からは、「安心して相談できた。」「対応する女性医師がもっと増えて欲しい。」などと好評です。

女性総合外来を希望する方は地域医療連携室にお問い合わせください。

ユニセフ／WHO の“赤ちゃんにやさしい病院 (Baby friendly hospital)”の認定取得に 御理解と御協力をお願いします。



みなさんは“赤ちゃんにやさしい病院”をご存知ですか。

1960年代以降、アフリカをはじめとする開発途上国では人工乳による下痢のために大勢の赤ちゃんが亡くなりました。このことに危機感を持ったユニセフとWHOは母乳育児を積極的にすすめる病院を“赤ちゃんにやさしい病院”と認定し、中心的役割を担わせることにより母乳育児を推進しています。現在認定を受けている病院は世界に約16000ありますが日本は30施設にすぎません。

周産母子センターでは母乳育児の重要性を認識し3年前から院内のポスターにある“母乳育児成功のための10か条”を基本に取り組んでいます。当センターでは赤ちゃんとお母さんはいつも一緒なので赤

周産母子センター 講師 林 時 伸

ちゃんは好きな時に好きなだけおっぱいを飲むことが出来ます。当たり前のことを当たり前にできるように支援するだけで（実はこれが難しい！）母乳栄養だけで退院する母子の割合は2倍になりました。

今年、当院は“赤ちゃんにやさしい病院”の認定を申請しました。一次書類審査を通過し6月に現地調査が入ります。病院機能評価のいわば周産期センター版です。認定取得には母乳育児の取り組みが病院規模でなされていることが必要条件であり、そのための院内委員会が発足しました。赤ちゃんとお母さんが安心して母乳育児ができる“赤ちゃんにやさしい病院”を目指しましょう。認定は称号ではありませんが認定を受けた世界中の病院はこれを誇りにしています。

第1回育児サークルを開催して

周産母子センター 助産師 阿 部 明 美

周産母子センターは「赤ちゃんにやさしい病院」(Baby Friendly Hospital)を目指し、母乳育児の推進活動を行なっています。その一環として、母子とその家族が母乳育児を継続できるよう支援するために旭川医科大学附属病院で初めての育児サークルを立ち上げ、第1回目を4月24日に開催しました。

雪の降る悪天候の中、76組177名の親子の参加がありました。はじめに周産母子センター林講師から「未熟児・新生児医療が教える、命をはぐくむために大切なもの」と題した講演を行ないました。講演では、子どもをたくさん抱っこしスキンシップをはかることが大切、そのはじまりが母乳育児であるというメッセージをみなさんに送りました。その後各グループに別れ、育児サークルのあり方・育児で困っていること・断乳や離乳食・アレルギーなどについて話し合いました。アンケートから、このようなサークルを待っていました、同学年別・地域別のグ

ループがいい、友達づくりができた、色々な講演を聴きたいなどの意見が聞かれ、参加して楽しかったという意見が約9割で、このような会が望まれていることを改めて知る機会となりました。今後も参加者の声を生かし、育児支援の一環を担える育児サークルを目指していきたいと思えます。

御協力いただきました皆様に、この場をおかりして御礼申し上げます。今後とも宜しく申し上げます。



睡眠クリニックの開設と 精神行動生体現象モニタリングシステムの導入

精神医学講座 田村 義之

「快適な眠りに目覚める日」として毎年 3 月 21 日を「国際睡眠の日」と定め、2001 年から世界各国で睡眠に関する様々な啓発活動が行われています。日本でも、本年 3 月 21 日に第 4 回よりよい睡眠を考える会「睡眠に悩む方々と医師がともに集い考えるフォーラム」が全国 6 都市で同時開催され、札幌会場では当科千葉 茂教授も講演されました。

2003 年 9 月に、本院が日本睡眠学会認定医療機関 A 型の認定を受けたことはすでに報告したとおりですが、本年 3 月 21 日の国際睡眠の日に合わせて、当科では専門外来である睡眠クリニックを開設しました。これは、80 種類以上におよぶ睡眠障害を正確に診断し、どの診療科で治療すればいいかを見極める包括的な役割を果たすことを目的としています。

また、病棟では専用の検査室（2 床）とモニタリングルームなどで構成される、最新のコンピュータ

技術を駆使した精神行動生体現象モニタリングシステムが導入されました。本システムの導入により、とくに睡眠中や覚醒時の行動と脳波、種々の生体現象を長時間にわたって同時記録する polygraphy の技術向上が図られ、より簡便で詳細なデータ解析・編集が可能になりました。polygraphy とは、睡眠障害だけでなく、てんかんをはじめとする発作性疾患、せん妄など高次脳機能障害における行動障害の診断にも有用な検査法です。

今回導入された新システムを十分に活用し、また、各診療科との連携をさらに深めながら、これからも睡眠医療に力を注いでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



病棟移転後 診療科配置図

11 F		
	東病棟	西病棟
10 F	脳神経外科 放射線科・R I	精神科神経科
9 F	呼吸循環器センター（第一外科）	呼吸循環器センター（第一内科）
8 F	眼科 ペインクリニック科（麻酔科蘇生科）	整形外科
7 F	代謝・膠原（第二内科） 神経内科（第一内科）・皮膚科	泌尿器科 皮膚科
6 F	消化器センター（第二外科）	消化器センター（第二内科・第三内科）
5 F	女性外科センター（婦人科・生殖医学） 歯科口腔外科	血液・腫瘍内科（第三内科） 頭頸部外科センター（耳鼻咽喉科）
4 F	周産母子センター（産科・NICU・小児科） 小児外科	小児科 小児外科
3 F	（外 来）外科系（第一外科・第二外科）・泌尿器科・周産母子科（産科婦人科）・女性医学科（産科婦人科） ペインクリニック科（麻酔科蘇生科）・歯科口腔外科 ・遠隔医療センター ・材料部・病理部・集中治療部・手術部・医療安全管理部・栄養相談室・病院会議室・（財）旭仁会	
2 F	（外 来）内科系（第一内科・第二内科・第三内科）・小 児 科・整形外科・総合診療部外来 ・遠隔医療センター ・検査部・放射線部・薬剤部・看護部・輸血部・経営企画部・医療企画課・経営企画課・地域医療連携室 ・リハビリテーション（理学療法室 / 視能訓練室 / 音声・言語療法室）・受付カウンター・入退院受付 ・料金支払窓口・お薬渡し口・治験支援センター・正面玄関・郵便局・キャッシュコーナー・コインロッカー	
1 F	（外 来）精神科神経科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・放射線科・脳神経外科 ・救急部・病理部（剖検室）・放射線部・高気圧酸素治療室・結石破碎治療室・洗濯室・売店・一般食堂 ・職員食堂・喫茶室・理容室・美容室・花屋・クリーニング・ランドリー室・自動販売機・防災センター ・時間外玄関・時間外救急窓口・霊安室・会計課契約室	
B 1 F	栄養管理室・基準寝具室・消毒室	



新しいスタート

Fresh
Voice

薬剤部 山田 武宏

旭川医科大学が国立大学法人として新たなスタートを切りましたこの4月1日より、私も附属病院薬剤部で、薬剤師として勤務させていただくことになりました。

私は薬学部修士課程を卒業後、製薬会社で新薬の治験に関する業務などに携わっておりました。その後故郷である旭川に戻り、本学大学院博士課程にて薬理学に関する研究をしておりました。今までは、薬の効くメカニズムや開発に関することを学んできましたが、臨床において薬が実際にどのように使われ、どういった問題点があるのか、それをどう解決するのか、ということについては是非学んでみたいと思っておりました。加えて、大学病院は、調剤、製剤、混注業務や、病棟での服薬指導、試験研究業務など、薬剤師としてかなり幅広い業務のできるのが魅力です。現在は調剤室で仕事をさせていただいて

おりますが、若い薬剤師の先生方が中心となり、日々膨大な量の仕事をこなしており、業務に対する姿勢には見習うべき点が多々あります。毎日があっという間に過ぎ去って行きますが、覚えなければならぬことが多く、日々悪戦苦闘しております。仕事に対するモチベーションは高く持っているつもりなのですが、それに対して自分の能力がまだまだついてきていない状況です。同期に採用されました新人薬剤師は私以外に4名おり、現在32歳である私は、彼等に比べると「鮮度」の点では劣りますが、新しい事を吸収する姿勢は負けまいにしたいと思っております。今ここで仕事をさせて頂いていることに感謝し、日々努力していきたいと思っております。病院の皆様とは、これから様々な場面で接する機会があると思いますが、ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



1 カ月たった今

Fresh
Voice

看護部 小原 有加

病院見学に来てみて、患者さんを第一に考え作られている旭川医科大学附属病院という印象を受けました。その時から「絶対にこの病院で働きたい!」と強く思い、採用通知が手元に届いた時は、飛び上がるほどうれしかったのを覚えています。

実際に働いてみたらヒャ〜と思い実感したことは、何も仕事が出来ないことに対しての不安がどっと押し寄せてきたこと、もう学生気分ではいられないという現実でした。自分に自信がないという不安から、ナースコールが鳴り響くとビクッとなり、患者さんに接するのが怖いという感情さえ湧いてきました。

しかし、患者さんから「ありがとう」の言葉を頂いた時は、さっきまでの怖いという気持ちが嘘のように飛んでいってしまい、言葉の偉大さに勇気づけられます。

まだ、勤務し1カ月ちょっと、何が何だか分から

ず走り回っている日々で、先輩看護師からは「落ち着いて!」といつもアドバイスを頂き、ふっと我に戻ります。「何のためにこの看護を患者さんに行っているのかわかる? 意味もなく看護をやっている訳ではないのよ」と、厳しくそして時には優しく教えて頂き、看護の奥深さを改めて感じています。

看護師となった今、自分で進んだ道ですが、命の重さ、そして責任を負っていることにプレッシャーを浴び、正直大変な職業を選んできたなあと感じています。自分の出来なさに苛立ち、涙を拭きながら走り回ることも度々あります。日々学ぶことが山ほどあって、追いついていくのに精一杯ですが、先輩看護師や患者さんに出来るだけご迷惑をかけないように日々成長していきたいです。まだまだ一人前と呼べる日は遠いですが、笑顔だけは忘れずに頑張っていきたいと思っております。

【薬剤部】

副作用情報 (44)

尿の色調に影響を与える薬剤

尿の成分は、通常は、90%以上が水で、残りの主成分は尿素及び塩化ナトリウムであり、他にカリウム、カルシウム、マグネシウム、アンモニア、リン酸、クレアチニン、尿酸、硫酸なども含む薄黄色澄明な液体である。黄色の色調は主としてウロクロムという高分子酸性化合物による。

尿の色調が変化する場合、病気による原因がまず考えられる。疾病が原因とされる尿の色調変化としてビリルビン尿、ポルフィリン尿、ミオグロビン尿、乳児期の青いオムツ症候群等があげられる。これらは、薬の副作用症状の結果として起こる場合もある。しかし、副作用ではなく、薬自体あるいは代謝産物によって、尿に色調変化を起こす場合がある。表には当院採用薬品（カッコ内は商品名）の中で、服用によって尿の色調変化が報告されている薬剤をまとめた。これらを服用した場合、必ず着色するとは限らず、本人の体調や食事の内容によってその度合も変化する。この色調変化は一時的なもので、ほ

とんどの薬剤は服用を止めた時点で正常に戻る。従って、いつもと同じ薬を服用しているのに突然尿の色が変わったときは注意が必要である。

(薬品情報室 大滝 康一)

イミベネム/シラスタチン(チエナム)	赤褐色
エパルレスタット(キネダック)	黄褐色～赤色
塩酸エビルピシン(ファルモルピシン)	赤色
カルバゾクロムスルホン酸 Na(アドナ)	茶色～橙黄色
サラソスルファピリジン(アザルフィジン、サラソピリン)	黄赤色(アルカリ尿で)
セフジニル(セフゾン)	赤色
センナ、センノシド(プルゼニド、アローゼン)	黄褐色～赤色
塩酸ダウノルピシン(ダウノマイシン)	赤色
塩酸ドキシソルピシン(アドリアシン)	赤色
パニベネム/ベタミブロン(カルベニン)	茶色
ビタミン B2 剤(フラビタン、ハイボン)	黄色
ヒベンズ酸チベピジン(アスペリン)	赤色
フルタミド(オダイン)	琥珀色または黄緑色
塩酸ミトキサントロン(ノバントロン)	青色～緑色
塩酸ミノサイクリン(ミノマイシン)	黄褐～茶褐色、緑、青
メチルドパ(アルドメット)	黒色
メトロニダゾール(フラジール)	暗赤色
リファンピシン(リファジン)	橙赤色
レボドパ製剤(ドパール、メネシット)	黒色

輸血部発 ㊸

生物由来製品による

感染被害救済制度

平成14年の薬事法改正で生物由来製品という概念が定義され、原材料の採取から市販後の段階まで安全対策の強化が図られるようになりました。しかし、輸血などの生物由来製品には未だ感染症の伝播のリスクを完全に防ぎきれないという事情があります。スモン、HIVなどの医薬品副作用被害の救済については、以前から医薬品副作用被害救済制度が設けられていましたが、生物由来製品による感染被害に対する救済制度はありませんでした。この度ようやく、生物由来製品による感染被害救済制度が実施されることになりました。

本年4月1日に、国立医薬品食品衛生研究所・医薬品医療機器審査センター、医薬品副作用被害救済研究振興調査機構、医療機器センターの3つが統合され独立行政法人医薬品医療機器総合機構という組織が新設されました。この機構の業務として、1) 医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による疾病や障害等の健康被害を受けた方に対する医療

費、障害年金、遺族年金等の給付などを行う健康被害救済業務、2) 薬事法に基づく医薬品や医療機器などの承認審査、治験などに関する指導および助言などを行う審査関連業務、3) 医薬品や医療機器などの品質、有効性および安全性に関する情報の収集・解析および情報提供、消費者などからの医薬品および医療機器についての相談などを行う安全対策業務が定められています。

さて、生物由来製品による感染救済業務は、現行の医薬品副作用被害救済制度に準じて、(1) 生物由来製品を介した感染等による疾病、障害又は死亡について、救済給付を行うこと、(2) 救済給付の支給に係る者について保健福祉事業を行うこと、(3) メーカーなどから拠出金を徴収することが決められています。ただし、救済対象となるのは、平成16年4月1日以降に使用された生物由来製品を介した感染等による疾病、障害及び死亡についてのみです。遡っての救済が行われない、医薬品などの審査業務と救済業務が同じ組織内にある、制度の衆知が徹底されていないなどの問題はありますが、患者の利益を守るための仕組みができたことは歓迎すべきと思います。また、医療者はこういう仕組みがあることを知っておくことが必要と思います。

(輸血部副部長 紀野 修一)

記念品授与式

平成16年3月25日（木）に、医療事故防止強化月間の啓発に係る標語の採用者に対して、石川病院長から記念品が授与されました。採用者は下記のとおりです。

- 10階東 NS
佐藤 恵子 さん
- 手術部 NS
熊谷 陽子 さん
井戸川 みどり さん



病院機能評価の審査結果

5月18日付けで、機能評価機構から審査結果の通知が届きました。結果は「留保」となりました。

旭川医大病院ニュース第87号1ページに掲載の、「病院機能評価受審対策チーム名簿」の中で、施設課課長補佐の永井雅彦氏の名前が抜けていました。訂正してお詫びいたします。

平成 15 年度 患者数等統計

区分	外来患者数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病棟)
	初診	再診	延患者数								
1 月	人 1,079	人 19,903	人 20,982	人 1,104.3	% 52.71	% 50.23	人 12,692	人 409.4	% 68.01	% 80.02	日 20.12
2 月	1,035	19,430	20,465	1,077.1	53.78	51.69	12,477	430.2	71.47	83.81	20.18
3 月	1,289	24,032	25,321	1,100.9	57.47	52.21	13,628	439.6	73.03	84.16	19.40
計	3,403	63,365	66,768	1,094.1	54.65	51.38	38,797	426.4	70.84	82.66	19.90
累計	13,812	254,067	267,879	1,088.9	51.79	49.91	160,781	439.3	72.97	82.52	20.19
同規模医科大学平均	16,567	219,579	236,146	956.6	65.28	47.11	186,148	508.6	84.30	87.44	22.71

本院は現在再開発中である。稼働率は、承認病床数（602床）により算定している。

(経営企画課)

編集後記

旭川医大病院ニュースは59年の初版が発行されてから本誌で88号になる。88にまつわる言葉で、88歳は「八十八」を組み合わせると「米」になるところから米寿として祝う。八十八夜は立春から数えて八十八日目です。5月1～2日にあたる。この頃が霜の降りる最後になるので忘れ霜、別れ霜、霜の果(はて)などといい、農家では苗代に種籾を蒔く季節になる。八十八箇所は今から約1200年前の弘仁6年、弘法大師が開創した四国4県約1,400kmにもおよぶ信仰の道場である。ローカルな話では88愛情米(はちはち愛情米)がある。米を作るには88回の手間ひまがかかることから命名された米の品種で、岩手県南部産の「ひとめぼれ」を指している。さて病院ニュース88号は勿論「米」とは縁がない。しかし、はち

にする(八の字のように両方から支える意)は「共同である」あるいは「共同で営む」を意味する言葉とか。旭川医科大学は法人化され、今後ますます全職員の協調が大切である。法人化後で最初の病院ニュースが奇しくも88号になったことは偶然でない気がする。

(検査部 久保田勝秀)

時事ニュース

- 3 / 22 院内ボランティア感謝状授与式
- 4 / 3 病院長室等引越し
- 4 / 24 病棟引越し
- 5 / 12 看護の日